

第3章 秋田の将来ビジョン

1 時代潮流と秋田の可能性

今、本県は、人口減少・少子高齢化社会の到来、地球規模での環境意識の高まり、中国やロシアなどの新興国の経済発展、さらには、それに伴う地下資源や食料需給のひっ迫など、国内外における時代の大きなうねりを受けています。

その中であって、秋田の将来につながる「時代潮流」を的確に捉え、本県が有する潜在力を引き出し、「秋田の可能性」を現実のものとしていくことが必要です。

(1) 人口減少、少子高齢化と秋田

我が国の総人口は、出生数の減少により、2010年の1億2800万人から2020年には約1億2300万人になると予測されており、少子高齢化が先進諸国のどこよりも早く進行しています。

秋田県においては、2010年の109万人から2020年には約97.5万人に減少すると予想されています。

また、14歳までの年少人口は12.4万人から9.4万人と減少する一方で、65歳以上の老年人口は32万人から35.6万人に増加し、2010年以降、全国で最も高齢化の進んだ県になると予測されています。

このように少子高齢化や人口減少が進む中であって、地域社会の活力や経済力を維持していくためには労働力人口、とりわけ若年層の雇用の確保に加え、意欲のある女性や豊富な経験を有する元気な高齢者に活躍の場を積極的に提供し、起業などに持てる能力を十分に発揮してもらうことが必要です。

このような課題に的確に対応し、元気な秋田づくりを志向していくことにより、秋田は今以上に女性や高齢者が活躍する、高齢社会モデル先進県として全国をリードすることが可能です。

また、高齢者の増加により、介護・福祉分野における産業・ビジネスを育成し、経済・雇用を活性化することも可能となります。

さらには、子育てに対する本県の手厚い経済的支援、ゆとりある子育て環境、高い学力を生み出す教育力や地域力といった本県の有する強みに磨きをかけるとともに、一歩踏み込んだ結婚支援を含めた総合的な少子化対策について、行政や企業、団体による県を挙げた取組を進めていくことで、日本における少子化克服のモデル地域としていくことが可能です。

(2) 地球規模での環境意識の高まりと秋田

これまでの社会経済システムは、生活の豊かさと便利さをもたらす一方で、様々な環境汚染や環境破壊を進行させてきました。

近年は、発展途上国などの工業生産力の急激な増大に伴い、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出による地球温暖化や酸性雨による森林や湖沼の被害、フロン等によるオゾン層の破壊、乱開発による熱帯雨林の急速な減少など、地球規模での環境問題が深刻になっております。このような側面から、「21世紀は環境の世紀」とも言われ、地球環境問題に対する国民の関心は高まっています。

本県は、水と緑と大地の豊かな自然環境に恵まれており、太陽光、風力、小水力、バイオマス、地熱などのエネルギー源が豊富に存在します。そのような純県産のエネルギーを効率良く地産地消するローカルスマートグリッドを構築することで地球環境の保全に貢献できるとともに、環境に優しい新エネルギー関連産業を集積していくことが可能です。

(3) 中国やロシアなどの新興国の経済発展と秋田

国際経済は、世界的な金融危機の影響など様々なリスク要因を抱えておりますが、中長期的には東アジア諸国やインド、ブラジル、ロシアなどが引き続き高い経済成長を遂げていくと見られます。

とりわけ巨大な人口に支えられ「世界第2位の経済大国」となる見込みの中国と、豊富な天然資源を背景に国際的な発言力を強めているロシアが、環日本海圏域経済の大きな牽引役になるとみられ、環日本海地域が世界経済の中で、その地位を高めていく可能性があります。

例えば、本県に近いロシア沿海地方においては、日本との経済交流はもとより、文化や農業技術の交流・協力関係の強化へ期待が高まっています。

本県は、経済活動が活発になりつつある対岸地域の拠点港に最も近いという地理的優位性があることから、秋田港や整備された高速交通ネットワークを活かし、シーアンドレール構想の実現など、ロシア極東地域や中国内陸部・モンゴルさらには欧州までを視野に入れたグローバルな物流機能を強化することにより、環日本海貿易の拠点として成長することが可能です。

また、中国やインドにおいては航空機関連産業の発展が顕著であり、特に中国ではエアバスなどの航空機の製造に力を入れ始めており、本県の輸送機コンソーシアムの取組がより現実味を帯びてきています。

(4) 世界的な資源獲得競争の激化と秋田

世界的な経済成長を背景とした資源価格の高騰、中国やインドの台頭による資源

獲得競争の激化など、石油、天然ガス、非鉄金属鉱物を問わず資源をめぐる環境は大きく変化しています。

特にレアメタルは、自動車、携帯電話やゲーム機、デジタルカメラなどのIT製品等の製造に必須の素材であり、アジアを中心とした需要は急拡大を続けています。

しかし、レアメタルは、中国やアフリカ、アメリカなど生産国が限られているものが多く、その安定的な確保が課題となっています。

本県は、県北地域を中心に優れた鉱山技術が蓄積しており、都市鉱山と呼ばれる廃棄物等の山から、貴金属やプラチナをはじめとするレアメタル等を回収する先端技術を有しています。

現在、全県域における使用済小型家電の回収試験などの先導的な取組が行われており、今後、効率的な回収・収集などのリサイクルシステムを確立させることにより、本県がリサイクル技術で日本をリードし、レアメタル等金属リサイクル産業などの面で東アジアを代表する拠点として飛躍することが可能です。

(5) 食料需給のひっ迫や安全・安心な食へのニーズの高まりと秋田

世界的な人口増加や新興国における食生活の変化等により、世界的な規模において、今後、食料需給のひっ迫が続くことが予想されているほか、地球温暖化による気候変動の影響などにより、食料生産を巡る環境が大きく変動する可能性が指摘されています。

さらには、輸入食材による健康被害の発生の影響もあり、国内では安全・安心な食に対するニーズが高まっています。

本県は、北海道に次ぐ全国第2位の食料自給率を誇っており、秋田の農業は大きな潜在力を秘めています。このため、消費者ニーズに的確に対応するとともに、広大な農地等をフル活用し、他産業と連携を強化していくことによって、安全・安心な日本の食料供給基地としての確固たる地位を確立することが可能です。

また、豊富な農畜水産物など本県で生産される一次資源を活用し、多様な食品産業や食ビジネスなどを振興させることにより、県外から外貨を獲得するとともに、農業と一体となった安全・安心な食品ブランドを確立することが可能です。

(6) 自然と共生した人間らしい豊かな暮らしへの渴望と秋田

「物の豊かさから心の豊かさへ」という言葉に代表されるように、人間らしい生き方、安らぎや癒し、心の充足感が求められるようになっていきます。また、経済や環境、文化、コミュニティ、安全・安心など全体としての生活の幸福感（いわゆるGNH；グロス・ネーション・ハピネス）を人々は求め始めています。

本県はこうした時代のニーズをしっかりと受けとめることのできる風土を受け継いできました。長い歴史と伝統、美しい自然・景観、優れた文化・芸能、農村集落

に残る地域の「絆」、素朴な人情など有形・無形の資源を有しており、魅力にあふれています。

一方で、社会の成熟化に伴い、社会貢献への意識が高まり、従来行政が担っていた範囲に留まらず、「公」の役割を個人、団体、企業、行政が様々なパターンで協働し、担っていくような活動の広がりが見られます。

こうした活動と呼応しながら、魅力的な資源を丹念に掘り起こし、魅力に磨きをかけ、核にして育てていくことで交流人口や移住の増加、元気創造・地域の活性化に結びつけていくことが可能です。

【開放的な姿勢で将来を切り拓く】

グローバルで多様な社会経済の動きの中にあって、様々な潮流をとらえ、秋田のパワーや潜在する資源と融合させていくことで、成長の芽を見出していくことができます。

本県は、ともすれば、「閉鎖的」と言われる一面において、こうした成長のチャンスを逃してきたきらいもあります。

国内外に向けてアンテナを高く張り巡らせ、「開放的」で「前広」な姿勢で、新たな風を積極的に活かすことで、秋田の将来を大きく切り拓いていくことが可能です。

2 4年間に創造する“秋田の元気”

これまでに本県の克服すべき「基本問題」や「時代潮流」と「秋田の可能性」などを明らかにしてまいりましたが、このような状況を踏まえ、将来の秋田の確かな元気につなげていく取組を戦略的に進めていくことが重要です。

このプランでは、次に掲げる4つの“秋田の元気”を創造していきます。

元気A：秋田に、新たな “戦略産業を創出”する

人口減少に歯止めをかけ、次世代に活力をつなげていくためには、経済・雇用を牽引する力強い成長産業を生み出していかなければなりません。

本県には、自然エネルギー源が豊富に存在しているほか、世界最先端の優れた鉱山技術の蓄積があります。また、電子部品・電子デバイス産業の集積や中国やロシアに近いという地理的条件など、他にない強みを持っています。このアドバンテージを活かして新たな戦略産業を創出します。

製造品出荷額 1兆8,000億円（平成20年から16%の伸び）

県内に豊富に存在する太陽光、風力、小水力、地熱、バイオマスなどを活かしたエネルギーの導入やスマートグリッド技術の確立による新エネルギー関連産業の創出

今後、急速に進むと見込まれる電気自動車等の普及拡大や、新興国における航空機の需要拡大を視野に入れた次世代自動車、航空機産業への参入促進

電子部品・デバイス産業の集積など秋田の技術的な強みを活かしたパワーエレクトロニクス分野への参入促進による電子部品・デバイスの付加価値倍増

優れた鉱山関連技術の蓄積を生かした最先端技術による東アジア地域における環境・リサイクル産業の拠点化

巨大な市場へと変貌する中国や豊富な資源を背景に経済成長を遂げているロシアなどとの環日本海貿易やビジネス交流の拡大とシーアンドレール構想の推進等による物流ネットワークの構築

元気B：秋田の、“食・農・観” を丸ごと売り出す

秋田の持つ魅力は何と言っても食資源、観光資源であり、これらを丸ごと国内外に

アピールし、秋田の経済や地域活力の原動力にしていく必要があります。

本県は、全国第2位の食料自給率を誇っており、また、豊富な農畜水産物資源を有するなど、大きな農業の潜在力を秘めています。この潜在力を大きく引き出しながら、ブランド産地づくりを進める農業、秋田産品を活かした食品産業、秋田の食や歴史・伝統を取り入れた観光業などが一体となり、秋田ブランドのトータルイメージを形成し、売り出していきます。

農畜水産物産出額と食料品製造出荷額の合計 3,500億円（年率約2%の伸び）
県外観光客の宿泊客数 235万人（減少傾向から約10%増）

農業生産に食品加工、販売、産地直販、観光農園などを取り入れた農業発の新ビジネスモデルの展開など、農商工観の連携によるビジネスの創出

県オリジナル品目を主としたブランド品目の生産拡大や新技術を活用した食品開発など、売れる食ブランドの推進・産地化と中核事業者の育成

食、自然、文化や物産、観光、秋田のプラスイメージなど、秋田を丸ごと売り込むセル・アキタの推進

温泉や食などに加え、健康増進や地域産業、歴史・文化、伝統行事などと組み合わせた新たな観光振興など、“地域経済・社会を支える”観光創造



**元気C：県民が一丸となって
“脱少子化秋田”を果たす**

少子化の進行は、人口構造に歪みをもたらし、地域社会の活力の低下や労働力の減少による経済活力の減退などの大きな影響をもたらします。

本県で急速に進行している少子化の流れに歯止めをかけるため、若者の出会いの場づくりなどの結婚支援から子育て・教育までにわたる総合的な少子化対策を県民と一丸となって推進していきます。

秋田の出生数 8,000人（減少傾向に歯止め、増加へ）

県民運動の展開や市町村が地域の実態に沿って裁量を発揮できる包括交付金や民間の取組を支援するファンドの創設など、少子化克服のための官民の協働体制づくり

結婚コーディネーターを配置し、「結婚サポーター」の養成や「結婚支援ネットワーク」の形成など出会いと結婚を応援する「あきた結婚支援センター」の活動の全県的な展開

企業に対する奨励金の交付などによる企業のニーズに合わせて選択できる新たな奨励金制度の創設など、企業・事業所による仕事と育児・家庭の両立支援を後押しする仕組みの創設

待機児童の解消、病児・病後児保育、事業所内保育施設の整備促進など多様なニーズに対応した保育機能の充実による働きながら子育てができる環境づくり

元気D：高齢社会に対応した、“安心医療秋田”、“協働社会秋田”をつくる

本格的な超高齢社会の到来に備え、県民の安全・安心な生活を守るセーフティネットの構築に向けて、保健・医療サービスの維持・充実を進めます。

また、地域に残る「絆」、伝統文化、自然の恵みを改めて見直し、その魅力や地域資源を活かした地域づくりや交流、コミュニティビジネスの起業など、県民がそれぞれの立場で取り組む活動を支援し、地域活力を創造していきます。

生活習慣病死亡率 230.5 / 10万人（全国平均値以下へ）

コミュニティビジネスの起業 4年で200超の起業

【安心医療秋田を築く】

食生活の改善、運動習慣の定着、若年期からのメタボリックシンドローム予防対策による生活習慣病対策の推進

がん検診の受診率の向上、質の高いがん医療体制の提供、緩和ケアの充実など、死亡率連続全国ワースト1位の返上に向けた総合的ながん対策の充実・強化

情報提供や普及啓発の推進、相談体制の充実、うつ病対策の推進、自殺予防事業の推進など、死亡率全国ワースト1位の返上に向けた総合的な対策の推進

地域の中核的な病院の早期改築、高度医療機能の充実、地域における保健・医療情報の共有化など県民の公平な受診機会の確保を含めた医療提供体制の充実

【協働社会秋田を築く】

「一社一村運動」や「一学百村運動」、県民が応援団となって農村集落を支援する活動など、多様な人材・企業・大学の協働による元気ムラづくり

県民参加や地域発案による地域再生や地域の活性化を図るなど、多様な主体との協働による地域活力の再生・強化

地域住民発のコミュニティビジネスなどの起業化支援、高齢者の生活の利便性を向上させる生活支援サービスの起業促進など、新たなビジネスモデルの創出

地域コミュニティを支え、持続可能な定住生活圏を形成していくため、県や市町村、NPO、企業、大学などとの新たな協働体制の構築

3 みんなで目指す10年後の秋田

「みんなで目指す10年後の秋田」は、県民の皆さんとともに目指すべき、概ね10年後の秋田の姿を表したものであり、この姿の実現に向けて「プラン」に掲げた5つの戦略、戦略を支える横断的な取組、個別計画に基づく取組を推進します。

何よりも地域活力を衰退させる大きな要因となっている急速な人口減少に歯止めをかけること、そして、県民がこれからも安心して暮らせる持続可能な地域社会にしておくことは、県民の切実な思いであり、県政に課せられた最も大きな課題でもあります。

今後の10年で、世界情勢や我が国の経済状況はさらに大きく変動することや、厳しい財政運営が続くことも予想されます。また、国全体の人口減少や少子高齢化が一段と進む中であって、「目指す姿」の実現には、多くの困難を伴うことが予想されま

す。しかし、目指すべき10年後の秋田の姿を県民の皆さんと共有しながら、秋田の総力を結集して課題や困難を乗り越え、その姿を追求していきます。

目指す姿1（秋田の経済・産業活動）

（産業・雇用）

“陽・風・水・地・バイオ”などの新エネルギーや環境・リサイクルなど秋田の強みを活かした産業の成長が地域経済を牽引しています

秋田が、太陽光・風力・小水力・地熱・バイオマスなどの新エネルギーの有力な産出県となっており、先端技術を活用したスマートグリッドによる地産地消エネルギーインフラの整備と相まって、広く家庭にも供給されています。

鉱物や原油などの資源価格の高騰、地球温暖化などを背景に、環境・リサイクル産業が成長して、県内への関連産業の立地が進み、特に県北地域は、東アジアを代表する環境・リサイクル総合拠点として成長しています。

県南地域では、電気自動車をはじめとする次世代自動車などの輸送機械産業が地域の基幹的産業として大きく飛躍しているほか、県央地域では、電子部品・デバイス関連企業の集積や大学・公設試験研究機関等を活かした航空機などの先端技術産業が発展を遂げています。

また、医療・福祉など生活に根ざした分野においても、新たな起業や企業参入が進んでいます。さらに、豊富な農産物を活かした食品産業が出荷額を大きく伸ばし、安全・安心な食の秋田のプラスイメージを全国に発信しています。

秋田の強みを活かした多様で力強い産業の形成が図られ、若者の定着を支えているとともに、地域経済を牽引しています。

第3章 秋田の将来ビジョン

(貿易)

環日本海貿易の重要な玄関口となり、東アジアとの経済交流が拡大しています

中国・ロシアなどの経済発展を背景とした国際コンテナ定期航路網や港湾施設の整備、東北地方の高速交通体系等の物流インフラが充実しています。これによって、シーアンドレール構想の実現など、秋田の地理的優位性を活かした国内外との交流・連携も進み、秋田は環日本海諸国への貿易の重要な玄関口の一つとなっており、さらに東アジアとの経済交流が拡大しています。

(食・観光)

観光地や食品などの秋田ブランドイメージが全国・東アジアに浸透しています

秋田の自然、歴史、伝統文化や食、農林水産業をはじめとする産業に触れる多様なツーリズムスタイルが定着し、リピーターも増加し、韓国、台湾、香港、中国など東アジアやロシア極東地域をはじめとする外国人旅行客が多く見られるようになっていきます。

伝統的な郷土料理はもちろん、安全・安心で高品質な食品や秋田オリジナルのご当地グルメ、地域固有の資源や技術を活かした伝統的工芸品などを産出する秋田ブランドのイメージが全国に広く浸透しています。

(農林水産業)

企業的な手腕の多角的経営による儲かる農林水産業や、農業と他産業が一体となった「食・農・観連携ビジネス」が県内くまなく展開されています

集落営農組織の多くが法人化を達成し、若者を中心に農外からも多彩な人材が農業経営に参画するようになっており、それぞれが切磋琢磨しながら、企業的な経営手腕により多角的な「儲かる農業」を展開しています。

直播栽培や減農薬・減化学肥料栽培(あきたe c oらいす)などによる効率的で低コストの米づくりが広く行われており、また、稲ホールクロープサイレージ用稲や飼料用米、米粉用米、大豆などが広大な水田や畑をフルに使って栽培され、食料の自給率が向上しています。

秋田発のオリジナル品種の開発・育成が進み、各地に果樹、野菜、花き、畜産などの新たな産地が誕生して、消費者ニーズに応じた安全で高品質な農産物を安定的に供給できるようになっており、中食や外食を含め全国のマーケットで「秋田ブランド」として流通し、「食の宝庫 秋田」として高い人気を集めています。

農業経営体の多角化の一環として食品ビジネスへの参入促進などにより、地域の食材や食文化と革新的な加工技術を組み合わせたオリジナル食品の開発と販路の拡大

が進んでいます。また、農業と観光など他産業との連携が強化され、若者から高齢者まで老若男女を問わず意欲的なチャレンジにより、農業を基盤に生産・加工・流通まで一貫したビジネスの新たな展開が県内各地で図られています。

林業では、森林の針広混交林化や間伐の推進により、地球温暖化防止や水源かん養等の公益的機能を発揮できる森づくりが進んでいます。また、林道の整備や高性能林業機械の導入が図られ、造林から伐採・搬出までを一貫して行う効率的で低コストな林業活動が展開されています。

漁業では、つくり育てる漁業が定着し、ハタハタやヒラメをはじめ適切な資源管理の下で安定した漁獲量等が確保されています。また、フグなど県産魚介類の地場流通が進み、地元の新鮮で安全な海と川の恵みが四季折々に県民の食卓を賑わせています。

目指す姿2（秋田の暮らし）

（Aターン）

若者や本県出身者の大都市圏からのAターンが増えています

秋田の強みを活かし、これからも発展が期待できる成長産業の形成が進んでいるほか、2次産業や3次産業と連携して収益を拡大する農業経営体など魅力的な就労の場が増えており、地域雇用面では新規学卒者等の県内就職率が高まっています。

また、豊富な自然環境に恵まれ、子育てで家族や高齢者にとっても優しく、犯罪の少ない安全安心な地域であることと相まって、若者や秋田出身者の大都市圏からのAターン就職や移住者が増加しています。

（子育て環境）

婚姻率や出生率が上向いて少子化傾向に歯止めがかかっています

若者の人生や結婚、子育てに対する意識が大きく変化し、婚姻率や出生率が上向くなど、少子化傾向に歯止めがかかって、戦後第3のベビーブームと言われています。

国の施策に加え、県・市町村が一体となった取組により、妊婦健診や出産費、乳児医療費や保育料、奨学金などの経済的な支援の充実が図られています。

出産後の復職や、子どもが病気のときの休暇取得が容易にできる職場環境づくりが進むとともに、多様なニーズに対応した保育サービスの充実が図られ、仕事と子育ての両立が確保されています。

（男女共同参画社会）

若者を中心に男女の固定的な役割分担意識が大きく改善されています

様々な分野における女性起業家の活躍や、政策・方針決定過程などへの女性の参画

第3章 秋田の将来ビジョン

が進み、若い世代を中心に男女の固定的な役割分担の意識は徐々に改善し、一人ひとりがその能力を十分に発揮しながら活躍しています。

家庭、職場、地域においては、多様な生き方が選択できる環境の整備が進み、男性の育児休暇取得が秋田のスタンダードになるなど、男女が共に仕事と家庭生活や地域活動などと調和した暮らしが浸透しています。

(健康長寿社会)

健康寿命が伸び高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしています

65歳以上の人々が人口の3分の1以上を占めていますが、健康寿命が伸びて多くの元気な高齢者がこれまでに蓄積してきた豊富な経験や知恵を地域に還元して活躍しています。

地域の「絆」を強める連帯や共生の考え方が定着し、共に支え合うボランティア活動が広がるとともに、交通弱者対策や住宅など建築物のバリアフリー化が大きく進展し、高齢者や障害のある人をはじめ、みんなが安心して活動できる地域社会が実現しています。

高齢者は、健康づくりや介護予防に積極的に取り組み、また、保健・医療・福祉・介護などの連携によるサービス提供体制が整備され、住み慣れた地域や家庭で安心して生活を続けることができる体制が整っています。

(医療提供体制)

質の高い安心できる地域医療の提供体制が確保されています
がんや自殺による死亡率が大きく減少しています

地域の中核的な病院等の整備、医療連携体制の強化、人材の育成等が進み、質の高い地域医療の提供体制が整備されています。

広域的に必要とされる救命救急センター、周産期母子医療センターなどの三次医療機能が整備されているほか、救急搬送体制の充実が図られており、救急患者の救命効果が向上しています。

地域の開業医と中核的な病院の連携が進み、地域医療の確保充実が図られています。

県医療機関等に、情報通信を活用した診療情報を共有するシステムや遠隔画像診断システムなどの普及が進み、かかりつけ医と専門的医療機関との連携が図られています。

また、地域の実情に応じた効果的な移動診療システムが構築され、移動手段に制約のある高齢者や在宅患者などの受診機会が確保されています。

メタボリックシンドロームやがん予防などの生活習慣病対策や心の健康づくり・自殺予防対策が進み、がんや自殺による死亡率が大きく減少しています。

(安全・安心な生活環境)

事故や事件の少ない日本一安全で安心な地域となっています

県民に自主防犯意識や交通安全意識が定着し、犯罪や交通事故が少ない日本一安全で安心な秋田となっています。

また、若い世代からの消費者教育や高齢者等の見守り活動が成果をあげ、消費者被害の減少につながっています。

HACCP（危害分析重要管理点方式）の考え方に基づく食品衛生管理が普及し、食品による事故が減少しているほか、生産者・事業者・消費者が意見交換できる機会や食品に関する正確な情報を提供する機会が増えて、食品の安全・安心に関する確かな信頼が確保されています。

目指す姿3（秋田の地域社会）

(地域の活性化・再生・自立)

地域の魅力資源をビジネスにつなげる新たなコミュニティビジネスやスモールビジネスが県内各地で展開されています

地域の課題は地域で解決するという自立の気運が満ちあふれています

住みよい地域づくりや社会的な課題の解決を図るため、県民一人ひとりはもちろんのこと、ボランティアやNPOなどによる自発的な活動が様々な分野で活発に展開されています。

こうした活動により、「地域のことはできるだけ身近な地域の実践活動で主体的に解決していく」という自立の気運が浸透しており、県民と行政との協働で担われる新たな「公」の領域が広がっています。

また、地域と協働して地域課題の解決に取り組む大学の地域貢献活動や企業のCSR活動が定着しており、新たな「公」の領域における活動主体として大きな役割を果たしています。

小規模高齢化集落では活性化の取組が進み、高齢者によるビジネスが地域経済を活性化させています。

地域の「絆」や自然・伝統などの魅力ある資源を売りにする新たなコミュニティビジネスやスモールビジネスがあちこちに立ち上がっています。

県と市町村とが対等の関係に立って十分な協議を行う場が整っており、ここでの議論を踏まえた、観光振興、税の徴収、消費者行政など様々な分野で、県と市町村の事務の共同化など新たな取組や制度が定着し、自立と活性化を図る地域づくりが進んでいます。

こうした中で、地方分権改革が着実に進展し、地域住民が自らの意思によって地域

の行政を決定することができる分権型社会が構築されています。

(文化・スポーツ)

文化やスポーツが地域の活力を大きく引き出しています

秋田ならではの文化財や伝統工芸、芸術作品などが豊富に保存・伝承されるとともに、多様な創作活動や伝統芸能の発表・公演が活発に行われ、子どもの頃から芸術文化に親しみ、創造性に富んだ潤いのある暮らしを楽しめる環境が根付いています。

地域固有の文化や良好な景観を見つめ直す活動などを通じて、県民の地域への関心や愛着が高まり、地域の文化や景観を守り、創り、後世に継承していこうとする県民意識が広く根付いています。

また、スポーツの裾野が拡大し、多くの県民が身近な地域のスポーツ施設を利用して、年齢、体力、好みに応じたスポーツやトレーニングに親しんでいるほか、スポーツ医・科学と一体となった充実した指導でレベルの高い選手やチームを輩出しています。

秋田を本拠地とする地域密着型のプロスポーツが設立され、一流のプロ選手の感動的な美技を身近に観戦する楽しみが増えただけでなく、サポート・ボランティアがそれをしっかりと支え、スポーツが秋田の活力のシンボルとなっています。

(環境保全・自然保護)

山河が光り輝く自然環境がしっかりと守られ引き継がれています

「省CO₂型住宅」などの普及やオフィスでの環境マネジメントシステムの導入が進み、温室効果ガスの排出量削減分を環境価値として取引する県内企業が増えるとともに、地域ぐるみ、小学校・中学校ぐるみでの環境を守る取組が実践されています。

こうした取組の結果、秋田県からの温室効果ガスの排出量は、相当程度に抑制されています。

また、一人ひとりが「もの」を大切に、「もの」の価値を無駄なく活かす考えが定着し、ごみの排出抑制やリサイクルが日常的な県民の習慣として根付いており、地域内の廃棄物は地域内で再資源化されるなど、循環型社会への転換が図られ、環境と調和したまちづくりが進んでいます。

「水と緑の森づくり税」を活用したスギ人工林の針広混交林化により、環境や公益性を重視した森づくりが進んでいます。

多様な生物が生息する原生的自然、里山の自然、水辺環境などが良好に保全されており、県民、NPO、企業等の多様な主体による潤い豊かな景観づくり、中山間地域の森林や農地の保全など「水と緑豊かな秋田」づくりが進んでいます。

八郎湖は、地域住民主導の水辺再生活動が活発に行われており、水質の改善により、

農業や漁業などの産業に持続的な恵みをもたらす「恵みや潤いのある“わがみずうみ”」となっています。

目指す姿4（秋田の産業や暮らしを支える基盤）

（教育・人づくり）

多彩な個性と能力が育まれ、有能な人材が多数輩出されています

家庭・学校・地域住民や企業等の連携協力が一層進み、地域社会全体で子どもを育む豊かな環境が整えられています。地域では、子どもから大人まで一緒になって、郷土の自然や文化、先人の苦労や偉業を学ぶ姿があり、郷土に対する愛着心が深まっています。

幼稚園・保育所等、子どもの居場所がどこであっても、就学前の全ての子どもに、質の高い教育・保育が等しく提供されています。

小・中学生は、少人数学習等の恵まれた教育環境で伸び伸びと学び、基礎学力と体力の両面で全国トップレベルを維持しています。

高校生は、確かな学力と専門的な知識や技術のほか、科学的探究心やしっかりとした職業観が養われ、国際感覚を持った生徒も育っています。

高等教育機関では、大学コンソーシアムあきたを中心に、単位互換や教職員の人事交流、オープンキャンパスの共同実施などの連携が進み、また、小・中・高校との連携による教育活動や県民向けの各種公開講座の開催、市町村・企業・住民などと連携した地域活性化の取組など、地域貢献活動が活発に行われています。さらに、社会人入学やリカレント学習などが一般的になり、キャンパスでは様々な世代が共に学ぶ姿が見られ、情報ネットワークの活用により家庭にしながら学べる講座も多数提供されています。

また、県内大学等によるそれぞれの特色を生かした教育や学術交流、多様な主体による活発な国際交流の実践などにより、グローバル社会で活躍できる個性的で実践力を備えた人材や、国際感覚を身につけた人材が多数育っています。

産業人材の育成の面では、子どもの頃から勤労観を養う教育が広く展開されており、インターンシップなどの職場体験を経験した多くの若者が、ものづくり産業をはじめとする地元企業に定着するようになって、地域経済の発展に貢献しています。

キャリアアップを目指す人には、意欲や希望に応じ、産業ニーズを先取りした多様な専門教育や職業能力開発メニューが整っているほか、職業相談や職業訓練によるきめ細かな就業支援の充実により、県外で得た知識や技能、経験を生かしてAターンする人が増えています。

(IT・科学技術)

IT・科学技術が社会や産業振興に直結する成果を生み出しています

日常生活のいろいろな場面で情報通信技術が広く活用されており、あらゆる世代の県民がいつでも、どこでもインターネットを通じたサービスを手軽に利用できるような社会になっています。

大学・公設試験研究機関等では、国際的にも活躍できる創造性豊かな優れた若手や女性の研究者が養成され、競争的な環境の下で、その能力を最大限発揮し、社会や産業振興に直結する研究成果を多数生み出しています。

また、高齢化に対応した健康食品や医療機器等の研究開発、水田や休耕田等を最大限利活用して食料を増産する技術の創出、稲わらや間伐材からエタノールなどの有用なバイオ製品を製造する技術開発などで大きな成果をあげています。

食品加工、電子部品・デバイス、輸送機械、環境・リサイクルなど、産学官による共同研究の成果の企業への技術移転が進むとともに、特許取得件数も大幅に増えています。

(社会資本整備・危機管理)

産業と生活を支える社会基盤の整備がさらに進んでいます

産業を支える基盤として、高速道路ネットワークが概ね形成されているほか、インターチェンジへのアクセス整備が進むなど、利便性が向上しています。

また、秋田港に加え、船川港、能代港の機能強化が進められるとともに、国際コンテナ航路が開設・増便され、環日本海諸国との貿易の拠点となっており、さらに東アジア等との経済交流が拡大しています。

東アジアとの交流が活発に行われるなど国際化が一層進展し、ソウルとの定期便や台湾とのチャーター便など国際航空路線を利用する交流人口が増加しています。

生活を支える基盤として、県民の快適な暮らしに欠くことのできない下水道等の整備、ゆとりある空間を活かした身近な公園や緑地の確保、冬期交通の円滑化などが進められ、質の高い快適な生活が整えられています。

都市部では、渋滞の解消が進むほか、二酸化炭素排出量削減の観点から、鉄道やバスなどの公共交通機関の利用を促進する取組が本格化しています。

小規模高齢化集落などの条件不利地域では、高齢者など交通弱者のニーズに対応したきめ細かな移送サービスが提供されています。

また、自然災害に備え、県土の安全・安心を確保するため、ハードによる県土保全対策や公共施設等の耐震化が進むとともに、ソフト対策として、住民・地域・行政が一体となった強力な防災・危機管理体制が整備され、災害に対する安全性が一層強化されています。

10年後の秋田に 思いを馳せて

ここまでは、4つの分野で16項目にわたり、「みんなで目指す10年後の秋田」を描いてまいりました。

10年後の市中の街角や村のあぜ道で、そして、家庭の団らんの場で、幸せを実感し、希望を語り合う、次のような姿を思い浮かべます。

新エネルギーなど秋田の強みを活かした産業の成長が地域経済を牽引している秋田
(ドライブ中のAターンサラリーマンの家族)

(電気自動車の車窓から)

子供達:「見て、見て。あの風車。何基あるのか数えられないくらいたくさん!」

Aさん:「すごいなあ。丘陵線上の風車群は圧巻だなあ。」

妻:「この辺の民家の屋根には太陽光パネルが普及しているし、公共施設の屋上には小型の風車も見えるわ。水路には小水力発電も見えるわよ。」



Aさん:「秋田はエネルギーの地産地消ができる先進県なんだ。だから、パパの会社は秋田にあるんだよ。おっと、そろそろ電気自動車に蓄電しないと。」

子供達:「それじゃ、あそこの道の駅で買い物して、蓄電したら。」

(道の駅の直販所にて)

妻:「野菜に魚にお肉。みんな、地元秋田産ですって。やっぱり新鮮だわ。」

Aさん:「伝統的な食材に、米粉製品や新食感の漬け物などの加工品のほか、B1級、C1級のここならではのものがいっぱいあるね。まさに食は秋田にありだな。」

妻:「車の蓄電が終わったみたいよ。あんまり買いすぎないでね。」

(帰りの車の中で)

妻:「それにしても、10年前に秋田にAターンした頃のことを思い出すわ。」

Aさん:「あの頃、日本の景気はどん底で、秋田の雇用は最悪の時期だったよね。」

妻:「あなたは、秋田はこれから伸びるって言ってたけどね。」

Aさん:「若さとチャレンジ精神もあったけど、県や市町村、地元の大学や研究機関の強力なサポートもあったし、秋田の人たちの応援はありがたかった。」

妻:「地域の「絆」がしっかりとあって、みんなが何かと世話を焼いてくれたわね。」

Aさん:「おかげでパパの会社もこの10年、順調に業績を伸ばして従業員も増えてるし、地域の雇用や活性化に貢献できるようになったけど、パパの夢はね、キラリと光るオンリーワンの技術に磨きをかけて、この会社を働く喜びがあふれる秋田発の最先端企業にすること。それまで頑張らないとね。」

子供:「私も、パパとママが好きな秋田が大~好きだわ。」

子供 : 「僕もお父さんとお母さんみたいに、一度は県外に出てみたいけど、きれいなお嫁さんを連れて、絶対に秋田に戻ってくるからね。」(笑い声)

農と他産業が一体となった「食・農・観連携ビジネス」がくまなく展開されている秋田 (あぜ道で語りあう農業経営者家族と近所の人たち)

Bさん : 「10年前と比べて、若い女性の就農が増えたねえ。女性だけでなく農業をやりたいって言って秋田に戻る人や県外から移住する人が増えてるね。」

Y夫婦 : 「なんてたって農業には魅力がある。都会じゃできないすばらしい仕事だから。私たちも県外からの移住組だけど、今も秋田の農業に大きな魅力を感じてますよ。」

Bさん : 「オレがこの会社を設立した10年前は、米の値段が下落する一方で、農業に明るい将来展望が見えない時期だったなあ。」

妻 : 「でも今は、出荷量が安定して伸びてるわ。特に食品加工部門は、ウチの会社の大きな収入源の一つになっているのよね。」

長男 : 「今や、安全・安心は秋田の農作物の代名詞だし、都市圏の消費者の評判も上々で、ブランドとして認知されてるね。」

Bさん : 「10年前、秋田は食品加工の分野が弱くて、優れた農産物の安価な供給県と言われてたな。でも今は、特産品を加工して付加価値を高めた製品を県外に出荷できるところが増えて、周辺地域への経済波及効果も大きくなっている。」

長男 : 「安心・安全なウチの農産物は外食チェーンから引き合いがあってね、資本提携してウチの野菜を都会の消費者へ届けようと思ってるんだ。」



Bさん : 「米や加工食品は、最近は中国からの注文も大きく伸びてるのよ。米の海外輸出はまだまだ伸びるよ。」

長男 : 「ところで、Xさんとこの農家民宿と産直レストランは結構評判が良いみたいだけど。」

Xさん : 「おかげさまで、固定客もついたし、安全・安心な地元のを新鮮なうちに出す店ってことで、遠くから定期的に通ってくるお客さんもいますよ。」

長男 : 「ウチで採れる旬の野菜や果物を使った料理だもの。おいしいのは当たり前だよ。」

長男妻 : 「10年前と比べれば、若い人の農業への参入や新たな取組で地域が活気づいてきた

第3章 秋田の将来ビジョン

わ。秋田の実り豊かな田園風景をこの子にも、絶対残してあげたいわ。私も頑張ります。皆さんよろしく願います。」

子育て支援が充実していて少子化傾向に歯止めがかかっている秋田

(再会で話がはずむ卒園生の母親と保育園長)

Cさん:「園長先生お久しぶりです。その節は子ども達が大変お世話になりました。近くを通ったものですから懐かしくてつい・・・。」

園長:「ホント久しぶりだわ。ちゃんとちゃんも大きくなったでしょう。」

Cさん:「大きくなりましたよ。それにしても10年ぶりかしら。お変わりはないですか。」



園長:「色々変わったわよ、特にこの10年の間で。子育てを支援する様々な施策が充実してきた、お父さんたちも熱心に子育てに参加してくれるようになったわ。」

Cさん:「お父さんたちがですか。それはいいことだね。」

園長:「それから、都市部の保育所は順番待ちでなかなか入れなかったけど、今はそういうことはなくなったのよ。それに保育のメニューも多くなっているわ。」

Cさん:「保育メニューって、どんな。」

園長:「急な預かりとか、土日の保育、夕方以降の延長保育などよ。医療機関と連携して病気の子どもでも保育してくれるところもあるのよ。もっとも、今はどこの職場も子どもが病気の際はちゃんと休暇をくれるから、心配は余りないけど。」

Cさん:「それにしても、最近の若いお母さんお父さんは、本当に子育てが上手になりましたよね。それに子育てを楽しんでみたいだね。」

園長:「今は、子育て中のお母さん同士、お父さん同士が色々と気軽に情報交換できる場もたくさんあるのよ。」

Cさん:「それで、今どきの若いお母さん、お父さんは、楽しく子育てできるんですね。」

園長:「子どもは地域の宝よ。地域全体で子育てをサポートしてるのよ。」

Cさん:「そうなんですか。ところで男性の保育士さんが何人もいますね。」

園長:「今や保育士は人気の職種で、男性の希望者も結構多いのよ。お父さん代わりとして、子どもたちにもとっても良い影響を与えてるわ。」

Cさん:「あそこの年配の男性はどなた。」

園長:「現役をリタイアした元気な地域のお年寄りよ。保育ボランティアに来てくださってるの。こうした方々が地域の子育ての大きな力になってるわ。」

Cさん：「高齢者の生きがいがいづくりにもつながるし、元気高齢県ならではの取組ですよ。」

園長：「秋田は、今、出生率が向上しているから、子育て支援の方もこれまで以上に頑張るわ。」

愛着のある地域でいつまでも安心して生き生きと暮らせる秋田

(久しぶりに帰省中の娘と親子水入らずの高齢者夫婦)

長女：「二人とも元気だった。テレビ電話で見るよりは元気そうで安心したけど。」

Dさん：「大丈夫さ。父さんたちの年代はまだ若手だよ。この地域は10年前と比べると元気な高齢者が増えているんだぞ。」

妻：「高齢者は増えたけど、みんな益々

元気よ。10年前から地域ぐるみで毎朝ウォーキングをやって、健康づくり運動が定着しているからかしらね。」

Dさん：「それに、地区の集会所でやっている陶芸、書道、絵画、太極拳、健康教室、栄養教室、介護教室などのいろんな活動でも若返るよ。」

妻：「元気いっぱい70代、80代の先輩たちが先生よ。この地域では50歳代までは青年、60歳から70歳代までは壮年。80歳になってやっと高齢者よ。」

娘：「さすがね。やっぱり高齢化モデル先進県と言われる秋田だわよね。ところでお医者さんにはかかってないの。」

Dさん：「地域の診療所に定期的に通ってるさ。ちょっと難しい病気や検査でも、市街地の病院と画像やデータをやりとりしてちゃんと診断してくれるんだよ。診療所と言ったって大したもんさ。」

娘：「日々の買い物なんかはどうしてるのよ。」

妻：「市街地に出る人のための乗り合いタクシーだってあるし、デリバリーとか言って市街地のスーパーが定期的に日用品や魚やお肉などを持ってきてくれるの。」

娘：「こんなシステムがみんな地域住民の協力で運営されてるなんて、すごいわ。」

妻：「高齢者の介護や冬期間の雪下ろしだって、市街地の施設や関係者、ボランティアの人達と連携した体制やネットワークがあるから心配いらないのよ。」



第3章 秋田の将来ビジョン

Dさん：「そうそう、この辺じゃ元気な母さんたちが農産物や山の幸を加工して販売する高齢者ビジネスも盛んでな。うちの母さんも、楽しみながら結構稼いでるよ。」

娘：「四季折々の豊かな自然に囲まれて、みんなが強い「絆」で結ばれて、助け合い、励まし合い、志高く、明るく暮らしてるって感じよね。」

Dさん：「今年の集落の夏祭りも、隣の集落の若手や県内大学の学生が加勢してくれるようだよ。この祭りは、地域外の人達の支援で5年前に復活したんだ。」

娘：「今度の夏祭りは、絶対に家族みんなまで遊びにくるわ。高速道路がつながって便利になったしね。ここ、私たちのセカンドハウスにしちゃおうかな・・・」



ここまでのシーンで語られた「なにげない会話」は、10年後の秋田の暮らしのほんの一端を垣間見たにすぎません。

そして、みなさんにはみなさんの10年後の将来設計や思いがあるでしょう。

そうした、みなさんの「夢」の実現、秋田の姿の実現に向けて、皆さんとともに歩んでまいります。